

キャラクター名
雪城 茅 (ゆきしろ ちがや)

プレイヤー名

シンドローム	オルクス ソラリス	ワークス	UGNエージェントC	カヴァー	研究者
オプション		年齢	39	性別	男
覚醒	探求	衝動	加虐	初期侵食率	29 %
出自	親の理解	経験	裏切った	邂逅	腐れ縁：春日恭二

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	27
肉体	0	0	1			1	行動値	7
感覚	1	0	0			1	(非装備時)	7
精神	2	1	2			5	戦闘移動	12
社会	5	0	0			5	全力移動	24

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			RC	2		交渉	1	
回避			知覚	1		意志	2		調達	1	
運転:			芸術:			知識:レネゲイド	1		情報:UGN	2	
運転:			芸術:			知識:医療	1		情報:警察	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
素手	白兵	1r		-5		

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ
防弾防刃ジャケット	6	3	-	-	

所持品	
コネ：UGN幹部	
コネ：警察官	

合計装甲： 3 合計回避： 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
春日恭二	P 憧憬	N 憐憫		
両親	P 信頼	N 脅威		
山原紅美子	P 信頼	N 劣等感		
橘満穂	P 庇護	N 敵愾心		
常盤冬希	P 信頼	N 嫌悪		
風早梨鈴	P 庇護	N 憐憫		
春日ロイド	P 懐旧	N 嫌悪		

最大財産P: 12 残り財産P: 4

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果:	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果:	コスト分のHPで復活							
要の陣形	2	3	メジャー	-	3体	-	-	
効果:	対象を3体に。シナリオLV回							
導きの華	2	2	メジャー	視界	単体	自動	-	
効果:	次の達成値+[LV*2]							
癒しの水	2	2	メジャー	視界	-	自動	-	
効果:	HPを[LV]D+5点回復							
狂戦士	2	5	メジャー	視界	単体	自動	80	
効果:	次のC値-1、ダイス+[LV*2]							
妖精の手	2	4	オート	視界	単体	自動	-	
効果:	R2p153 判定ダイス1つの出目を【10】に変える/シナリオLv回							
ジャミング	3	3	メジャー	視界	単体	自動	-	
効果:	EE 98p 攻撃疎外。対象が判定を行う直前に使用。判定ダイス-Lv個							
機械の声	★							
効果:								
声無き声	★							
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

元FH所属の現UGNエージェント。
元々探求心が強く興味のあるものには一直線の性格であったことから研究職についていた。
FHではエージェントよりも主に研究職として立ち回っていたことの方が多い。
オーヴァードに覚醒した後はFHエージェントとして活動していることもあった。
現在はUGNエージェントとして活動している。

裕福な家系であり、20年ほど前に発生した未知のウイルス、レネゲイドウイルスに対し理解のある親に生まれ、
「レネゲイドウイルスは素敵なものであり、オーヴァードは良き能力」という考え方でいた。
ただ一方で「オーヴァードがいずれジャーム化すること」までは理解が及んでいなかった。
現在はジャーム化について知ったこともあり、ジャーム化について知っていくが一番必要な研究と感じ、UGNにてジャーム化について研究している。
主にジャーム化した人間を戻すことはできないのか、という部分を考えていることが多い。

小学生の頃から、SFものの作品が好きであり、超能力などの能力を扱うヒーローに憧れていた。
年齢を重ねると同時に憧れは募り、自分が能力者ならこんなことをしたいと言った夢を書いたノート。
中学生の頃、そのノートをすっかり図書館に忘れ、拾ったのがひとつ上の先輩の春日恭二だった。
中身は今思うとSF小説の設定のような夢物語ばかり書いていた。
名前の書いてあるノートを、渡して来てくれた時。
自分自身はくっさらずかしいと感じていたが、その夢物語を春日は面白く笑ってくれた。
—それが、春日との出会いだった。

以来、春日とは日常でも交流が増え、特になにかする、ということではなくてもつるんでいることが多かった。